

千客万来
横浜にぎわい座
Yokohama Nigiwai-za

JARP 神奈川会
7-キ7 7-ル7

神奈川会のイベントとしては初めての試みでもあり、団体割引の人数と寒さが心配でした。しかし当日はこの冬一番の冷え込みにもかかわらず、36名の老老男女が参加していただきました。桜木町駅から徒歩3分の至便なところにある横浜にぎわい座（館長は「笑点」でお馴染みの桂歌丸さん）に定刻通り全員が集合、2階にある歌丸さんの人形や有名落語家の色紙などの展示物を見学し、また童心に返った方々が法被と扇子を貸して頂くコーナーで記念写真を撮っておりました。



お二人さん>受付何時もご苦勞様です



皆様・・・一席お聞きくださいと、誰か前座で真打か・・・その気になって!!

最近の「笑い」はテンポの速い話術（トーク）が若い方を中心に受けているようですが、この鑑賞会に参加して驚いたことは、落語にはその内容にも味わいがあり、また前座から二つ目、そして真打とその実力の違いが歴然としてあるという伝統の深みでした。「笑い」はストレス解消の最高の治療薬と言われ、また「ユーモア」とともにその国の文化のレベルを象徴するとされます。落語が江戸時代から現代にいたるまで隆盛を継続しえたということは歌舞伎、能・狂言に劣らない伝統芸能として世界に誇れるものではないかと思いました。甚だ面白くない話になってしまいましたが。





定刻通りに開演、順番は前座（開口一番ということで座布団直しを兼ねた若手が一席、何と芸名はどこにも出してもらえません）、次に二つ目（呆け老人をテーマにした小話が、大多数を占める年配のお客に大受け）、色物として漫談調の奇術があり、真打の落語で中休み（お仲入り）、その後落語と色物（粹曲、踊りと都都逸）、そしてその日の真打の落語（春風亭柳橋）、文字通りのお笑い



の連続であつという間の二時間半でした。落語はすべて古典落語とのこと、現代にも通ずるようにアレンジもされていてよくわかりました。歳をとり心から笑うことの少なくなった年配者には顔の筋肉がほぐれ、心のストレスも少しはとれ楽しい半日でした。その証拠に終わった後の皆様がニコニコしておられたのが大変印象的でした。確かに「笑い」が若返りの特效薬であることは、帰りの玄関で撮った写真を見て頂ければご了解頂けるのではないのでしょうか。



皆様ステキな笑顔ですね!! 長寿の秘けつですね



梅野さんが > 新メンバーをお誘い下さいました

二次会も17名の参加を頂き、かつての歓楽街の名残を留める飲み屋さんで繰り出しました。幹事の趣味と実益を兼ねた事前の下見の効果もあり、手頃な値段で和気藹々と楽しむことができました。一杯入ると落語家顔負けの弁舌さわやかな方が多くなったのには驚かされました。



笑顔がステキ!!

作成 カメラ 木村 一雄
コメント 中井 順一
編集 富山 友次